

関東平野南部の東京都世田谷区，府中市で掘削されたボーリングコアの古地磁気層序

Magnetostratigraphy of the sediment cores derived from the Setagaya and Fuchu areas of Tokyo Metropolitan, central Japan

植木 岳雪^{1*}, 船引 彩子², 竹村 貴人², 斎藤 広隆³

UEKI, Takeyuki^{1*}, FUNABIKI, Ayako², TAKEMURA, Takato², SAITO, Hiroataka³

¹ 産業技術総合研究所・地質情報研究部門, ² 日本大学文理学部地球システム科学科, ³ 東京農工大学大学院農学研究院

¹ Geological Survey of Japan, AIST, ² Department of Geosystem Sciences, College of Humanities and Sciences, Nihon University, ³ Department of Ecoregion Science, Tokyo University of Agriculture and Technology

関東平野南部の東京都世田谷区，府中市において，合計3本のオールコアボーリング掘削を行った．現在まで，堆積相，微化石，物性，化学組成の分析が進められている．ここでは，3本のコアの古地磁気層序について報告する．

NUCHS-1 コアは世田谷区桜上水の日本大学文理学部構内で掘削されたコアで，長さは80 mである．深度12.7 mまでは，後期更新世の武蔵野面を構成する礫層とそれを覆う開析谷底堆積物，立川ローム層からなり，それ以下の深度では前期更新世の上総層群の海成の砂礫層からなる．上総層群の古地磁気極性は，深度24.5 mまでは正，それ以下は逆が卓越し，それぞれ Cobb Mountain Subchron, Matuyama Chron-Lower Cobb Mountain Subchron 境界以前の Matuyama Chron に相当する．

TAT-1 コアおよび TAT-2 コアは府中市幸町の東京農工大学構内で掘削されたコアで，長さは両方とも50 mである．TAT-1 コアでは深度11.5 mまで，TAT-2 コアでは深度8.9 mまでは，後期更新世の立川面を構成する礫層とそれを覆う立川ローム層からなり，それ以下の深度では前期更新世の上総層群の海成のシルト・砂・礫層からなる．上総層群の古地磁気極性は，TAT-1 コアでは深度16.3 mまで，TAT-2 コアでは深度23.0 mまでは正，それ以下は逆が卓越し，それぞれ Olduvai Subchron, Matuyama Chron-Lower Olduvai Subchron 境界以前の Matuyama Chron に相当する．

これらの3本のコアの古地磁気層序と周辺のコアの古地磁気・テフラ層序に基づいて，当日は関東平野南部の上総層群の層序と構造について議論する．

キーワード: 関東平野, 古地磁気層序, 前期更新世, コア, 上総層群

Keywords: Kanto Plain, Magnetostratigraphy, Early Pleistocene, Sediment core, Kazusa Group